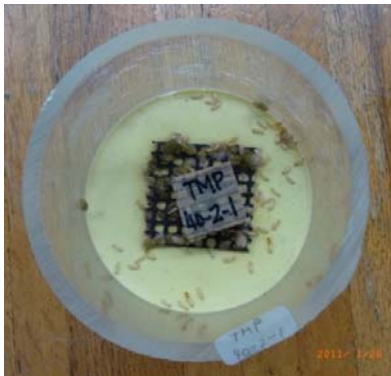


7. LVGの防蟻性能

防蟻性能試験

- ◆ 防腐性能の評価はJIS K1571に記載されている「防ぎ（蟻）性能試験」に準じて行いました。製造したLVGから2×2×1cmの試験体を切りだし、耐侯操作（JIS K1571）を実施しました。規定の容器中に試験体を置き、イエシロアリの職蟻（150頭）、兵蟻（15頭）を投入し、28±2℃の暗所に静置しました（写真左）。21日間経過後、試験体を回収し、質量減少率により防蟻性能を評価しました。
- ◆ また、実験室レベルの試作品について、JIS K 1571による野外試験を実施しました（写真右）。



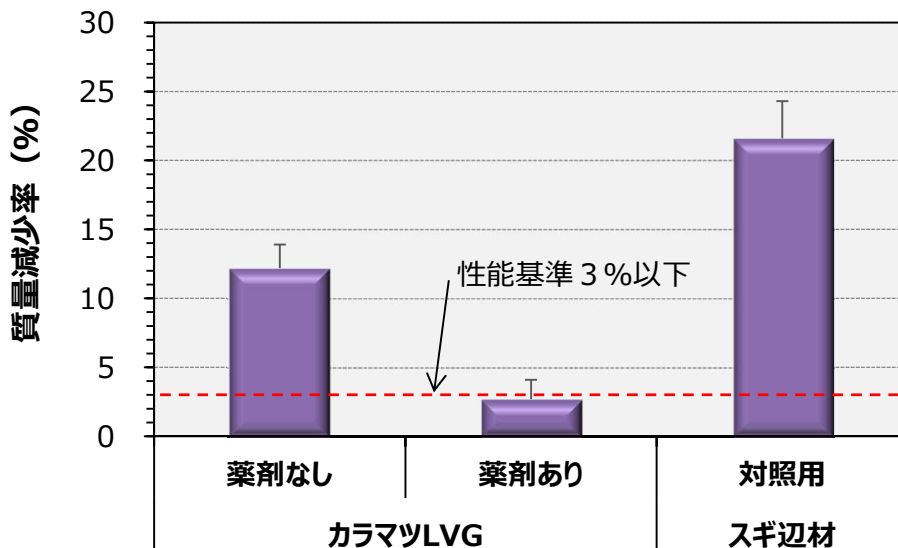
規定容器中の試験体と投入されたシロアリ



野外暴露試験の様子

LVGの防蟻性能

- ◆ 21日間シロアリとともに静置した試験体の質量減少率（%）を下図に示します。供試したシロアリの活性を調べるために用いたスギ辺材の質量減少率が15%以上であったことから、活性は十分であり試験が成立していることが確認されました。
- ◆ 薬剤なしのLVGでは質量減少率が3%より大きくなり性能基準をクリアしませんが、標準添加量（防蟻薬剤がLVG1m³あたり1.5kgとなる量）を接着剤に添加したLVGでは、シロアリによる質量減少率が3%以下となり性能基準をクリアしました。
- ◆ また、野外試験（JIS K1571）では、顕著な蟻害・腐朽は認められず、性能基準を満たしました。



薬剤なし 薬剤あり
3週間試験後のLVG